

健康への

メッセージ

シリーズ 109

胆嚢ポリープと癌

光町の皆さんこんにちは。胆嚢の病気は胆石症が最も多いのですが、その他に診られる病気についてお話しします。最近では健康診断に腹部の超音波検査が取り入れられて胆嚢にポリープがあると云われることが多くなりました。正確な頻度は不明ですが、97%以上は良性のものです。胆嚢の壁から盛り上がった隆起性病変としてみられます。ほとんどは大きさが5mm以下であり、コレステロールポリープ（コボ）です。超音波でも特徴的な所見が得られますので、鑑別が簡単です。

しかし、中には発見時にすでに大きさが5mmを超える場合があります。この場合には単なるコボのみならず別の病気も考えなければなりません。良性であるが将来悪化する可能性のある腺腫や悪性の胆嚢癌を考慮する必要があります。

一般に胆嚢の隆起性病変では、大きさと形から診断が始まります。先に述べたコボでは数は1〜数個みられますが、大きさは5mm以下が多く、形も丸く、エコーでもさらにさらとした特徴的な所見がみられます。経過を追うことが多く、大半は大きさには変化がみられず、時に徐々に大きくなります。

鑑別が必要となります。

大きさが5mmを超えた場合には、造影CT検査や内視鏡を用いた胆管造影によって隆起の部分の詳細な検討が必要です。5mmから10

mmの間では経過を見ることも良く行われます。当初は3ヶ月毎、形・大きさの変化が僅かな場合には6ヶ月から12ヶ月毎に超音波検査が行われます。大きさや形に急速な変化があった時や大きさが徐々に増えたり、10mmを超えた場合が問題です。これはポリープに腺腫性の変化が加わった場合で、悪性の可能性もあるために外科的な胆嚢切除術が行われます。腹腔鏡を用いた手術が勧められます。東陽病院でも可能です。

診断に困るのは慢性の胆嚢炎にポリープなどの隆起性病変がみられた時です。悪性との鑑別に役立つ胆嚢の壁の変化が複雑になります。検診にて胆嚢アデノミオマトーシス（胆嚢腺筋腫症）と診断される例は、この慢性の胆嚢炎に加えて一部あるいは全体に胆嚢壁の肥厚がみられる場合です。精密検査を行っても、良性と悪性の鑑別診断に難渋することが多く、疑わしきは罰せよと手術になるケースもあります。

胆嚢内に大きな腫瘤がみられた場合には癌の診断は容易ですが、すでに進行癌となっていることが多く、手術も肝臓の一部の切除を含めた大きなものとなり、転移の可能性もあります。胆嚢の早期癌を発見するためには、腹部超音波検査のスクリーニングが最も適しています。肝炎ウイルスと肝臓癌のような危険因子が判明していないので、毎年検診が必要となります。

※東陽病院の休日当番日

12月8日(日)・29日(日)・1月2日(木)・5日(日)
午前9時〜午後5時
医師2名が待機・来院の際は電話を ☎0413335



東陽病院 副院長 伊藤 文憲

クリスマス映画会

『ハリー・ポッターと賢者の石』

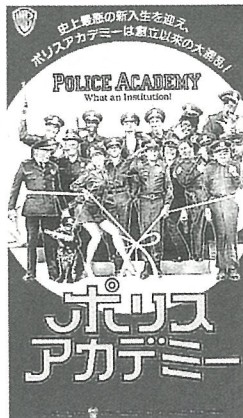


＝好評再上映＝

期 日 12月22日(日)
上映時間 1回目 午前10時
2回目 午後2時
定 員 各回120名
入 場 整理券(無料)を12月7日(土)から図書館カウンターで配布します。

新春映画会

『ポリスアカデミー』



ほんの

＝町立図書館＝
☎043311

期 日 1月5日(日)
上映時間 午後2時
定 員 120名
入 場 整理券(無料)を12月7日(土)から図書館カウンターで配布します。

史上最悪の新生を迎え、ポリスアカデミーが創立以来の大混乱になる、世界中を爆笑の渦に巻き込んだスーパーヒットコメディです。

12月及び年末年始の休館日

12月9日(月)、16日(月)、17日(火)、23日(祝)、28日(土)～1月3日(金)